

農業委員会だより

No.161

〒970-8026
いわき市平字堂根町4-8
TEL.0246(22)7534
FAX.0246(22)7538

発行 いわき市農業委員会

農家と
農委を
つなぐ
広報誌



平成25年度いわき市農林水産業振興大会開催
〜一次産業従事者の想いと力を結集して〜



● ● 記事のご紹介 ● ●

2 ページ

- H25 いわき市農林水産業振興大会開催
- H25 いわき市農林業賞受賞者決定
 - ・ J A いわき市梨部会
 - ・ 農事組合法人いわき菌床椎茸組合

3 ページ

- 平成 25 年産米
放射性物質全量全袋検査の実施

4 ページ

- がんばる農業者 あの人この人
 - ・ 柳井久雄さん (大久町大久地区)
- 第 62 回全国農業コンクール出場
- 東北・北海道農業活性化フォーラム参加

5 ページ

- 農地流動化情報
- 農業委員会 (農地部会) の
主な審議状況
- 農地法関連事務のスケジュール

6 ページ

- 地区だより (西部地区)
次世代に繋ぎたい地域のたからもの
- 新任委員紹介 (2名)
 - ・ 藁谷昭夫委員
 - ・ 鈴木ヒデ子委員



▲平成 25 年度いわき市農林業賞受賞者
左から、農事組合法人いわき菌床椎茸組合
波部明雄様 (代表理事)、磯上浩一様 (組合長理事)
J A いわき市梨部会
松本明能様 (部会長)、草野喜昭様 (副部会長)

平成25年度
いわき市農林水産業振興大会開催

福島第一原子力発電所事故に由来する風評をはじめ、担い手の高齢化や販売価格の低迷など、一次産業の活力の低下が著しい状況を打破し、農林水産業の早期復興を目指そうと、「平成25年度いわき市農林水産業振興大会」が、いわき市及び市農業生産振興協議会の主催で、去る8月8日にパレスいわやで今回初めて開催された。

当日は、市内の一次産業従事者を中心に、関係機関・団体を含め約二百名が参加し、「一次産業の再生なくして、いわき市の復興はありえない」といった想いのもと、一次産業従事者がその力を結集し、さらなる発展を遂げることを誓い合った。

席上、新たな一次産業就労者17名の紹介と激励や、「平成25年度いわき市農林業賞」の表彰が行われ、新旧の担い手に対し期待と称賛が寄せられるなど大いに盛り上がり、併せて、東洋大学社会学部の関谷准教授による「風評のメカニズムとその対策について」が講演された。

昼食には、パレスいわやの渡部調理長が、地元食材を調理して参加者に振舞うなど、関係機関・団体が一丸となった地産地消の取り組みも披露された。

今後も、このような取り組みを重ね、一次産業



従事者の気力を奮い立たせ、風評や災害に負けない、足腰の強い産地育成に繋がることを期待したい。
(執筆・撮影 荒川光弘委員)

平成25年度
いわき市農林業賞受賞者決定

いわき市農林業賞は、技術の向上や経営の改善を図るなど、本市農林業の振興と発展に多大な功績のあった農林業者及び団体等の栄誉を称えるもので、37回目となる平成25年度は、次の2団体が受賞されました。

J A いわき市梨部会 様
(部長 松本 明能 様)



《団体の概要》

- ・平成5年3月設立
- ・会員数 96名
- ・品目：梨
- ・事務局所在地：小川町



《受賞理由》 定年帰農者の新規加入促進等、新たな担い手の育成・確保を図りながら、産地の維持・拡大に取り組み、国庫事業を活用した透過型光センサー設備を梨選果場に導入するなど、高品質な梨の安定的な生産・出荷に取り組むとともに、先進的な産地を目指し、ジョイント栽培の普及等、多品種化や統一的な栽培技術の向上に努め、「サンシャインいわき梨」のブランドを確立された。
土壌診断を活用した最適な施肥設計や部会員全員がエコファーマーに認定されるなど、環境にやさしい農業の推進にも部会員一丸となって取り組み、地域の持続可能な農業に大きく貢献されている。

農事組合法人いわき菌床椎茸組合 様
(組合長理事 磯上 浩一 様)



《団体の概要》

- ・平成20年7月設立
- ・組合員数 8名
- ・品目：椎茸
- ・事務局所在地：渡辺町



《受賞理由》 原発事故の影響により椎茸の原木栽培が困難な状況のなか、菌床栽培による生産量の増加に大きく寄与された。
施設栽培による温度・湿度の適正管理により、高品質で安定した周年出荷体制を確立するなど、市場における高評価を得る一方で、県内最大規模の菌床椎茸栽培施設として、観光きのこ園など、新たな地域活性化の原動力としての役割が期待されている。
農工商連携による六次化商品を3品開発し、販路拡大やイメージアップ戦略を積極的に展開するなど、産地ブランドの確立に功績をあげられているほか、毎年地元の新規高卒者を採用するなど、雇用創出にも貢献されており、関東圏への出荷拡大による更なる雇用創出が期待されている。

(表彰式 平成25年8月8日 パレスいわや)

**平成25年産米
放射性物質全量全袋検査の実施**

昨年引き続き、全ての県内産米を対象に、全量全袋検査が実施されます。
基準値を超える米の流通を防ぎ、消費者に安全な米を届けることは産地の責任であり、福島県産米への信頼回復に必要不可欠です。
生産者の皆様は、制度の趣旨をご理解のうえ、必ず全ての米袋を検査してから販売、譲渡、消費することとし、産地の信頼回復にご協力ください。

検査場所		予約申込先	電話	FAX
			JA いわき市	飯野倉庫
	高久倉庫	第二営農経済センター	32-3012	32-3028
	カントリーエレベーター	第三営農経済センター	83-1122	83-1123
	三坂倉庫	第四営農経済センター	85-2333	85-2669
	第五営農経済センター倉庫	第五営農経済センター	62-4670	62-7647
JA いわき中部 (渡辺倉庫)		営農課	56-0808	56-2688
(株)相馬屋			73-0078	73-3100
(有)米問屋			29-2462	29-2463
福島糧穀(株)			27-2828	27-2835

※予約申込書は、市農業振興課、各支所、JA各支店で配布

《昨年度からの主な変更点》

1. バーコードラベルの貼付
 (新) 生産者が事前に米袋に貼付
 (旧) 米袋搬入後、検査場で貼付
2. 検査場所
 (新) カントリーエレベーター(四倉)
 (旧) 草野倉庫



《検査開始日》 平成25年9月20日(金)
《検査の対象》 生産した全ての米(飯米、縁故米、食用の「ふるい下米」なども含む)
 ※平成24年産米(未検査)の検査は各検査場に要相談

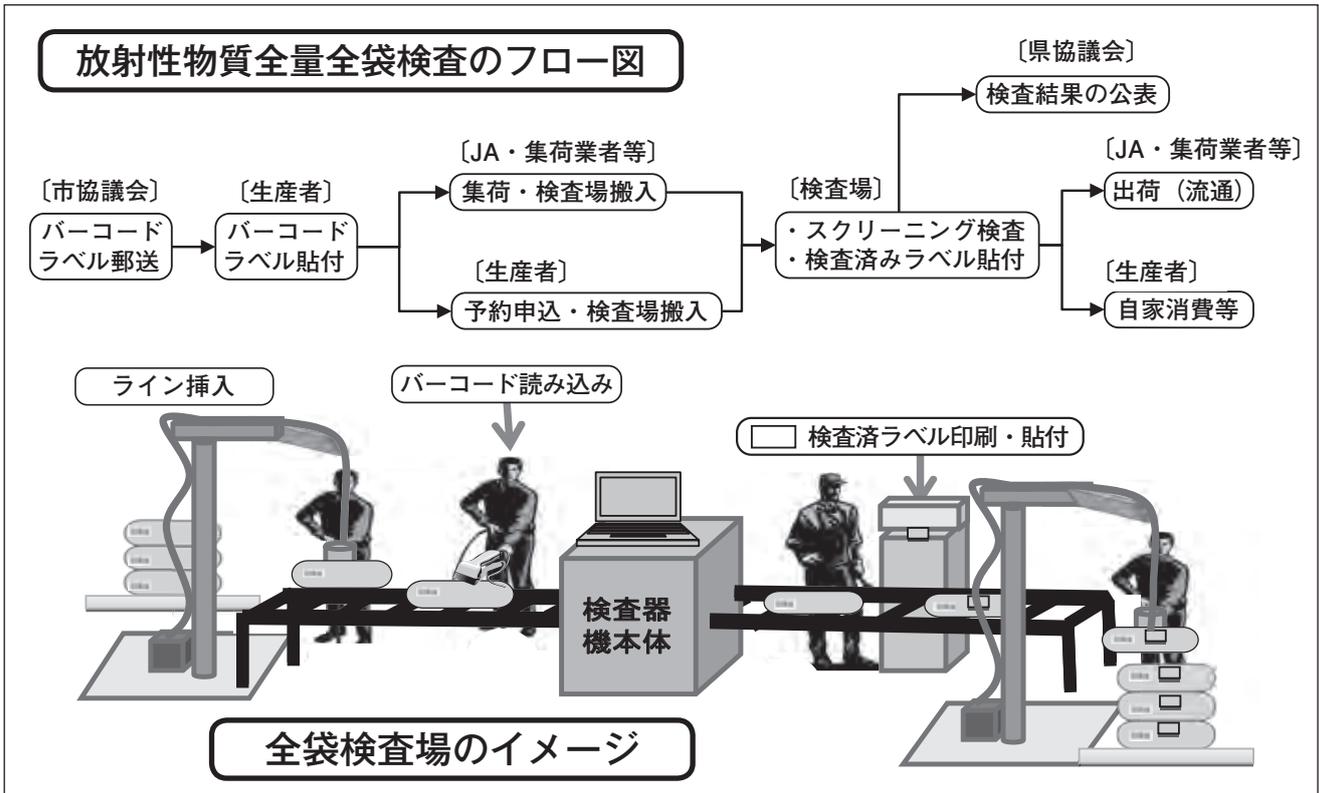
《検査の準備》 各生産者に郵送されたバーコードラベルを全ての米袋に貼付。
 ※貼付箇所等詳細は各検査場に要相談

《検査の受付》 JA等を通じて出荷する場合は不要。個人で販売・譲渡・消費する場合は、予約申込先へ予約申込書を持参又はFAX。

《検査の実施》 指定された検査日に、検査の準備を終えた米袋を搬入。
《検査料金》 無料

《注意点》 ①各生産者に郵送されたバーコードラベルを使用し、他人のものは使用しない。余っても譲らない。不足した場合、市農業振興課に連絡。②昨年のバーコードラベルは使用不可(日24未検査米には使用可)。
 ③出荷状態(30kg米袋)で検査実施。

《検査等に関するお問い合わせ先》
 いわき市農業振興課
 福島県いわき市農林事務所農業振興課
 22-11147
 24-6160



がんばる農業者 あの人忍の人



▲柳井久雄さん(60歳) 大久町大久

今回ご紹介するのは、大久町大久地区の認定農業者であります柳井久雄さんです。

当初、会社に勤務しながら父親と共に農業に従事していましたが、父親が体調を崩したのをきっかけに、平成11年に会社を退職して本格的に就農しました。

現在、県営大久地区ほ場整備事業における農業の担い手として、約20haの集積を受け、稲作を中心とした農業経営を展開しています。

今年からは、ほ場整備事業の面的工事が完了したので、省力軽労化、低コスト稲作を展開したいと考え、経営面積の約30%に直播栽培を導入し、育苗や春の田植え作業の軽労化を図りました。

作業能率の向上、労働時間の大幅短縮は実現できましたが、初めてのこともあり、発芽の確実性や初期の雑草管理など、新たな問題に直面し、来年以降も試行錯誤を続ける必要があるなど、課題も抱えています。

営農する以上は、「夢と希望のある農業経営」を標榜していますので、「農業の半分は夢を：：そうすれば希望をいざくことが出来る。」との想いを胸に、地域農業の担い手として、稲作を安全・安心の成果物として提供していきたいと、新たな決意を話されました。

(執筆・撮影 飯高敬一 委員)

第62回全国農業コンクール

「(有)とまとランドいわき」名誉賞を受賞

日本のトップファーマーが集う国内最大規模の大会「第62回全国農業コンクール全国大会」が、平成25年7月18日に郡山ユラックス熱海で開催され、当農業委員会の鯨岡委員が代表を務める「(有)とまとランドいわき」が、全国の代表20組に選出され、最終審査の結果、名誉賞(農林水産大臣賞・毎日新聞社賞)を受賞されました。

当日は、鯨岡委員と同法人の元木専務が出席し、「地域資源と高度生産技術による農業の復興」被災地福島県の底力」を題目とし、オランダの高度な技術を取り入れたトマトの生産体制構築や、震災後も全従業員員の雇用を継続し、生産量を増加させるなどの、地域活性化に貢献してきた経緯を発表されました。



▲名誉賞を受賞された
鯨岡委員(右)と元木専務(中央)

平成25年度東北・北海道農業活性化 フォーラムに参加

東北・北海道の農業委員会系統組織が一堂に会する「平成25年度東北・北海道活性化フォーラム」が、「地域農業の振興に向けた農業委員活動」をテーマとし、去る8月29日、宮城県名取市で開催され、当農業委員会委員24名と事務局職員2名が参加しました。

当日は、千六百名が参加し、東北大学教養教育院・総長特命教授の工藤昭彦氏の基調講演の後、青森県弘前市・秋田県美郷町・宮城県東松島市農業委員会の活動発表及びパネルディスカッションにおいて、活発な意見交換が行われました。

フォーラム参加に併せて、国が進めようとしている6次産業化の宮城県内の先進事例を視察し、取組内容、課題等について盛んな質疑応答が行われ、実りある視察研修となりました。

《主な視察先》

- デリシャスファーム(株)(宮城県大崎市) トマトの施設栽培、加工・販売、直営レストランを運営
- (有)伊豆沼農産(宮城県登米市) ハム、ソーセージの加工・販売、直営レストランを運営



農地流動化情報 vol.21

農業委員会では、農地の有効利用促進を図るため、売買・貸借等を希望する農地の情報を提供しています。

■売りたい

No	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平下高久字川和久(1筆)	畑	6.32
2	平下片寄字袋内(1筆)	畑	1.53
3	平下片寄字沼ノ作(4筆)	畑	16.49
4	平下片寄字江ノ上(3筆)	畑	6.12
5	小名浜上神白字山崎(5筆)	田	30.17
6	後田町柳町(4筆)	田	54.56
7	勿来町四沢柴橋(1筆)	田	9.55
8	好間町今新田字ネバリ坪(1筆)	田	9.91
9	好間町今新田字六十前(1筆)	田	9.91
10	川前町川前字茄子平(1筆)	畑	10.11

■貸したい

No	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平泉崎字上河原(3筆)	田	30.66
2	平泉崎字岸前(1筆)	田	10.09
3	平泉崎字川端(4筆)	田	19.61
4	平泉崎字上百目木(2筆)	田	20.82
5	平泉崎字集(1筆)	田	10.19
6	平泉崎字雉子町(3筆)	田	30.57
7	川前町川前字茄子平(1筆)	畑	10.11

【お問い合わせ】

農業委員会事務局農地調整係
☎ 0246 (22) 7578



※今回掲載した農地以外にも売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談ください。

《農業委員会(農地部会)の主な審議状況(4~6月:3ヵ月分)》

処理件数 対象面積	許可権者(届出受理者)		備考
	農業委員会	福島県知事	
農地法第3条 許可申請	43件 129,574㎡	—	農地の権利移動 (売買・賃貸借等)
農地法第4条 届出・許可申請	27件 14,642㎡	4件 1,588㎡	農地の自己転用
農地法第5条 届出・許可申請	138件 95,609㎡	22件 25,590㎡	権利移動を伴う 農地の転用



〔農地部会の審議風景〕

- ※ 4条及び5条は、市街化区域の農地に限り農業委員会(市町村)への届出(受理証交付)です、それ以外は県知事に申請
- ※ 県知事への申請は、農業委員会が受付・審議し、許可相当とした申請に意見を添えて県へ提出(副申)

《農地法関連事務のスケジュール》

区分	受付期限	現地調査	農地部会審議	県へ副申	許可証等交付	処理期間	
農地法第3条	届出	(随時受付)	—	—	—	受理後2週間	2週間
	申請	毎月1日	毎月中~下旬	毎月下旬	—	農地部会審議 当月の末日	1ヵ月間
農地法第4条	届出	毎月5・20日	—	—	—	毎月15日・末日	10日間
	申請	毎月1日	毎月中~下旬	毎月下旬	農地部会翌日	県副申の翌月 17日前後	1.5ヵ月間
農地法第5条	届出	毎月5・20日	—	—	—	毎月15日・末日	10日間
	申請	毎月1日	毎月中~下旬	毎月下旬	農地部会翌日	県副申の翌月 17日前後	1.5ヵ月間

- ※ 農地法第3条届出：相続により農地を取得する場合
- ※ 処理期間：受付期限から起算(受理日ではありません)

トピックス

農業委員(選任委員)が 変わりました

6月に、いわき市農業共済組合と
いわき市議会からの推薦を受け、新
たに2名が農業委員として選任され
ました。



藁谷 昭夫 委員

- 平成25年6月28日就任
- 選任委員(農業共済組合推薦)
- 農政振興部会 ●三和町渡戸



鈴木 ヒデ子 委員

- 平成25年6月28日就任
- 選任委員(いわき市議会推薦)
- 農政振興部会 ●内郷宮町

農家のための情報誌

全国農業新聞の購読をあなたも

発行…毎週金曜日(月4回)
購読料…月600円
申込先…お近くの農業委員
または農業委員会事務局
電話…(22)7534

編集委員

- 荒川 光弘 ●草野城太郎
- 飯高 敬一 ●渡邊 和夫 ●佐川 良平

地区だより 《西部地区》 (小川・川前)

次世代に繋ぎたい地域のたからもの

西部地区から今回ご紹介するのは、小川町下小川地区の取り組みです。

下小川地区は、昭和55年度から59年度にかけて

圃場整備を実施した地区で、水田稲作を中心としながら、様々な野菜も栽培している地区です。



平成19年度から福島県農地・水環境保全向上対策に加入し、「下小川地区環境を守る会」として、下小川地区の区長さんが代表者となり、農業者から高齢者、女性、子どもたちなど、地域住民が一体となり、農地や農業用水等の地域資源の保全活動に取り組んでいます。事業の対象となっている



また、下小川地区は昔から洪水被害が多発する地域のため、地元消防団による予防見回りや、大雨や洪水発生後の見回りも行っています。遊休農地の解消としては、景観植物を植栽し、地域住民に憩いと安らぎの場を提供し、生物多様性の保全活動としては、子ども会による生き物調査を行っています。生き物調査を行うと、普

農地は、田畑を合わせて約62haあり、全てが農業振興地域内農用地になっています。主な活動は、遊休農地の発生状況の調査や各施設の点検、用排水路の草刈や泥上げを年に2回実施しています。

段は川遊びをしない子どもたちが裸足で水路に入り、オタマジャクシやタモロコ、ドジョウなどを見つけるとは大はしゃぎをしています。今後、農地や農業用水等に色々な生き物が生息できるように、農業生産基盤の整備と農村環境の保全活動を両立した取り組みを、地域全体で担ってほしいものです。(執筆・撮影 草野城太郎 委員)



編集後記

今年の夏は猛暑となり、うだるような暑さのなか、今まさに記事をまとめている最中です。

思い返しますと、今年は8月初頭まで梅雨明けが遅れ、7月中は寒々しい天候が続き、冷夏の心配もされていましたが、蓋を開けてみれば、全国的には記録的な猛暑となり、高知県四万十市が国内観測史上最高の41℃を記録し、「日本一暑い町」の称号を得るなど、様々な「記録」が生まれました。

鹿児島県の名瀬や沖縄県の久米島では、7月の降水量が0ミリである一方、全国的にゲリラ豪雨が頻発するなど、まさに「異常気象」となりました。

地球の未来を憂いながら、今日も現地調査で汗水を流してきます。

(執筆 渡邊和夫 委員)

